

夏の観光めぐり「こまきものづくり」

* 株式会社 馬印 *

株式会社 馬印は、創業より百余年にわたって培ってきた職人技による技術とレーザー罫引システム等最先端技術に裏打ちされた技術の融合により作り出された、ホワイトボード、黒板、掲示板、案内板、チョーク等の情報伝達商品を自社工場で一貫して生産しており、そのアイテムは2,000種類以上です。

【社名】

株式会社 馬印

【所在地】

本社：名古屋市中川区、小牧工場：小牧市大字入鹿出新田725番地

営業所：東京、大阪

【会社HP】

【創業】

明治29年9月

【設立】

昭和48年6月18日

【事業内容】

白墨並びに黒板拭きの製造および販売、ホワイトボード・黒板類並びに案内板・掲示板・パネル類の製造および販売、文具事務用品類の製造および販売のほり・旗・看板・広告物の製造および販売
上記に付帯する一切の業務および施工。

【会社沿革】

明治29年（1896）

初代加藤杉太郎、名古屋市中区池田町にて加藤白墨製造所を創立。

馬印の商標にて学校用チョークの製造および販売を開始

昭和8年（1933）

加藤杉太郎より陽之助が事業を引き継ぎ、国内販売とともに輸出に努力、

満州・支那・東南アジア等に学校用チョーク、黒板、石板を輸出

20年（1945）

戦災にて本社・工場を焼失

22年（1947）

名古屋市中川区東出町にて再建、学校用チョークの製造を再開

34年（1959）

北米向け木製黒板の製造を開始

36年（1961）

国内向け木製黒板の製造および販売を開始

45年（1970）

国内販売に重点を置く。スチール黒板の製造および販売を開始

46年（1971）

ホワイトボードの製造を開始

48年（1973）

名称および組織変更により加藤白墨製造所より株式会社 馬印と改称

51年（1976）

小牧市に黒板を主体とした小牧工場を建設

平成6年（1994）

緑の消えない画期的なレーザー罫引システムの開発導入

8年（1996）

創業100周年

20年（2008）

小牧工場東棟完成

* 小牧宿 *

小牧宿は、名古屋と中山道を結ぶ尾張藩の上街道(木曾街道)沿いにつくられた宿場町で、宝暦年間(1751~64)のもものと推定される『小牧宿絵図』から、下町・中町・本町・横町・上之町に区割りされていたことがわかります。

また、この街道の東側には東馬場町、西側には西馬場町も形成されていました。

小牧宿は、他の宿場町同様、間口が狭く奥行きが深い町屋形式とよばれる地割りとなっていました。水口亭は、昔の町屋型式を今によく残しています。

町の南端には木戸があり、木戸の南西に高礼場がありました。

下町の西側には尾張徳川家の別荘・小牧御殿(後には小牧代官所)があり、脇本陣を勤めた岸田家は、御殿の入口の辻から南へ2軒目・3軒目の敷地にあたりますが、『小牧宿絵図』が書かれた当時は、まだ建てられていませんでした。

小牧宿の本陣を代々務めた江崎善左衛門の屋敷は、下町と中町の境界付近にあり間口六間半の大きさでした。中町・本町は商人の家屋が多く、まっすぐ北上すると、戒蔵院に突き当たり、戒蔵院から東が横町で、街道は横町から北へ鍵状に曲がり北上するとそこが上之町です。

* 小牧神明社と秋葉祭 *

~小牧神明社と秋葉社~

小牧神明社の祭神は天照大神で、永禄年間(1558~70)に織田信長が清須から小牧山に居城を移した際、清須にあった御園神明を守護神としてこの地に分霊し、駒木(こまき)神社と名づけたのが始まりと言われていいます。

小牧神明社の鏡内社の一つである秋葉社の秋葉祭は、毎年8月の第3土・日曜に行われ230年以上の伝統をもっています。

秋葉祭は、旧小牧宿住人の防火の願いを込めた祭として、江戸時代かた今日まで続いています。(江戸時代には旧七月に行われていました)

4台の山車(中町の唐子車・横町の聖王車・上之町の湯取車・下之町の西王母車)が、小牧市指定有形民俗文化財(昭和57年7月27日指定)となっています。

~宵祭(試案)~

土曜日の夜の宵祭では、宵祭用の幕と、明かりをつけた150個余りの提灯で山車を飾り、昔の小牧宿の町通りを巡行し練り歩きます。

道中には町内曳き廻し・どんてん(山車後輪を支点として車体を持ち上げ回転させること)などが行なわれ、それぞれの場に応じて、笛・大太鼓・小太鼓・三味線などを用いた十数曲もある祭りばやし演奏されます。

~本祭(本案)~

夜行われる宵祭に対し、本祭では昼用の幕・からくり山車を飾り、屋根神様や祭元の前でからくりを奉納しながら町内を曳き廻し秋葉社へ向かいます。

秋葉社前にて、中町・横町・上之町・下之町の順にからくりが奉納されます。